

府養研ニュース

2005年9月号

平成17年9月5日発行 大阪府養護教育研究会(広報部)事務局
 柏原市立国分中学校 会長 多根井 次朗 〒582-0021 柏原市国分本町7-1-20
 問い合わせ・ご意見は、Mailで本部役員まで fuyouken@visithp.jp

ホームページもご覧ください。 <http://fuyouken.visithp.jp>

特別支援教育の動向、関連リンク紹介などの各種情報をご覧になれます。

ニュースの全部とバックナンバー、講演会案内、報告がご覧になれます。

府養研ニュースは毎月Eメールで配布されています。来月10月は3日(第1月曜日)発行予定です。

一部メール網がまだ整備中もしくは検討中の市町村は、郵送または通送されています。

役員総会 第2回 2005年9月8日(木) 第3回 2006年1月12日(木)
 会場は アウィーナ大阪

研究部から

<p>終了 自閉症教育プロジェクト 一日研修会</p>	<p>2005年8月2日(火) 東大阪市立イコーラムホール 170名もの参加があり、盛況でした。参加者の感想を紹介します。</p>
<p>自閉症教育プロジェクト 事例研究 こうご期待 案内お待ち下さい。</p>	<p>2005年10月15日(土) 高津ガーデン テーマ「小学校と中学校の連携についての事例による考察」 報告者 豊中市立東豊中小学校 坂下和子 豊中市立第十五中学校 養護学級担任・通常学級担任 コメント アクトおおさか 新澤伸子</p>
<p>申し込み必要 N I S E 自閉症教育実践セミナー 案内添付 締め切り迫る 9月15日(木)必着</p>	<p>2005年10月21日(金) 大阪府教育センター http://www.nise.go.jp/soumuka/kikaku/katsudo/projects_project1-4.html NISE 独立行政法人 国立特殊教育総合研究所 「養護学校等における自閉症を併せ有する幼児児童生徒の特性に応じた教育的支援に関する研究 - 知的障害養護学校における指導内容, 指導法, 環境整備を中心に -」 対象: 自閉症のある幼児児童生徒の指導にあたっている教職員 (養護学級担任もぜひお申し込み下さい。)</p>
<p>事例研究会</p>	<p>2005年12月3日(土)</p>
<p>シンポジウム</p>	<p>2006年2月4日(土)</p>
<p>終了 ICT活用プロジェクト 夏期講座</p>	<p>日時: 2005年8月17日・18日 会場: 大阪府立高槻養護学校 講座Gの感想を添付しました。他講座の報告も、出来次第ホームページにUPしていきたいと思っております。</p>

行事部から

府教委障害教育課・府教育センター障害教育グループとの懇談会
2006年1月予定

研修部から

終了テーマ別研修会	2005年8月8日(月) アウィーナ大阪 報告記事あり
終了 実技講習会	2005年8月24日(水) 好評のうちに終わりました。参加者は70名余りでした。午前中は「ものづくりの意味」「教材の持つ役割」についてのお話と、いろいろな楽しい教材をねらいや使い方も交えた紹介がありました。 報告記事あり 講師 象の会 内藤 壽・松永 榮一・朝井 翔二 各先生 http://www15.ocn.ne.jp/~zounokai/ 象の会のホームページにて作品が見られます。
教育講演会	2006年2月2日(木) おたのしみに!!

他団体から

全特連 愛知大会 申し込み必要 締め切り9月15日(木)	第44回全日本特別支援教育研究連盟全国大会 愛知大会 2005年10月26日(水)27日(木)28日(金) ・シンポジウム / ・記念講演 トヨタ自動車の現状と課題 ~ 人づくりを中心に ~ ・24分科会 申込書・内容は右 URL http://ngy.sohos.ne.jp/~zentokuren
日本臨床心理学会	2005年9月15日(木)~17日(土)第41回大会 大阪教育大学にて 「特別支援教育」「不登校」「軽度発達障害」などのテーマ 詳細は学会 HP http://www.geocities.jp/nichirinshin/
日本特殊教育学会 第43回大会	2005年9月23日(金)~25日(日) 場所 金沢大学角間キャンパス http://www.ed.kanazawa-u.ac.jp/~tokkyo/
大阪教育大学附属養 護学校創立40周年 記念研究大会	2005年11月4日(金) 9時30分~16時30分 大阪教育大学附属養護学校 案内配布済
医療関係者のための 自閉症セミナー 2005 NPO法人生活支援 センターあすく 案内配布済	2005年9月23日(祝日)午後1:00~4:45 キャンパスプラザ京都 医療関係者のための自閉症セミナー2005 ~自閉症の人が診療を受けやすくなるために~ 「自閉症のバリアフリーと医療」 大屋 滋 「歯科での実践」 河内 志穂 「学校検診での実践」 平井 かよこ 参加費用 一般 ¥2,500 医療関係者はもちろん、教育・福祉関係者・保護者も参加可。

案内配布済みのものは、府養研ホームページに案内があります。

<http://fuyouken.visithp.jp/joho01.htm> (情報コーナー)

NISE 自閉症教育実践セミナー(大阪会場)開催案内

1. 趣旨

独立行政法人国立特殊教育総合研究所におけるプロジェクト研究「養護学校等における自閉症を併せ有する幼児児童生徒の特性に応じた教育的支援に関する研究 - 知的障害養護学校における指導内容、指導法、環境整備を中心に - 」(平成15年度～17年度)のこれまでの研究成果(自閉症教育実践ガイドブック - 今の充実と明日への展望 -)(平成15年度)、「自閉症教育実践ケースブック - 知的障害養護学校における実践 - (仮)」(平成16年度)の普及を図り、自閉症のある子どもの教育の充実・発展に寄与するとともに、本研究に関する課題を整理し、解決の方向性を見出す。

2. 主催 独立行政法人国立特殊教育総合研究所
大阪府教育センター

3. 期日 平成17年10月21日(金)

4. 会場 大阪府教育センター
住所：大阪市住吉区苅田4丁目13-23
電話：06-6692-1882 FAX：06-6692-1898

5. 対象地域 北陸・東海・近畿地方
(富山県, 石川県, 福井県, 岐阜県, 静岡県, 愛知県, 三重県, 滋賀県, 京都府, 大阪府, 兵庫県, 奈良県, 和歌山県)

6. 対象者 主として知的障害養護学校等で自閉症のある幼児児童生徒の指導にあっている教職員

7. 定員 200名 (午前中のみ +250名を参加可能とする)

8. 日程

9:00	9:30	9:45	11:00	12:30	13:30	16:30
受付	開会	研究成果報告	講演	休憩	分科会(5分科会)	閉会

1) 全体会

9:00 - 9:30	受付	
9:30 - 9:45	開会 趣旨説明, 日程説明, 諸連絡	
9:45 - 10:45	研究成果報告	報告者 国立特殊教育総合研究所 主任研究官 佐藤克敏
10:45 - 11:00	休憩	
11:00 - 12:30	講演 「今後の自閉症のある子どもの教育の充実をめざして」	国立特殊教育総合研究所 総合研究官 小塩允護

2) 分科会 (13:30~16:30)

第1分科会	子ども一人一人に応える授業づくり	実践報告：筑波大学附属久里浜養護学校 井上昌士 大阪府立吹田養護学校 早瀬美奈 助 言：トモニ療育センター 所長 河島淳子	45名
		【概要】個別もしくは集団における指導での具体的な個に応じた支援や配慮を事例を通して報告し、自閉症の特性に応じたよりよい授業づくりについて協議する。	
第2分科会	社会生活への広がりをめざして	実践報告：富山大学教育学部附属養護学校 浅川義丈 堺市立百舌鳥養護学校 井澤郁子・高口由季 助 言：筑波大学附属久里浜養護学校 校長 西川公司	45名
		【概要】家庭や地域もしくは居住地校等での活動への取組について、事例を通して報告し、社会生活への広がりが必要となる指導や配慮について協議する。	
第3分科会	学校から地域社会へのよりよい移行をめざして	実践報告：大阪教育大学附属養護学校 河野健三 大阪府立佐野養護学校 松浪啓介・清岡奈津子 助 言：国立特殊教育総合研究所 総合研究官 小塩允護	45名
		【概要】高等部に在籍する生徒の地域生活への移行について、個別の教育支援計画を利用した取組や作業所等への情報の引き継ぎとフォローにおける取組をシステムと事例の両方から報告し、自閉症の生徒のよりよい移行支援の在り方について協議する。	

第4分科会	基本的な理解と対応(初心者のための講座)	実践報告：大阪府立豊中養護学校(小学部) 古賀由起 大阪府立豊中養護学校(高等部) 新保理絵 助 言：大阪府自閉症・発達障害支援センター アクトおおさか 所長 新澤伸子	40名
		【概要】タイプの異なる自閉症の事例(自発性の乏しい児童と行動傷害のある生徒)の指導経過について、児童生徒の理解の方法、個々の児童生徒に応じた対応を報告し、理解の仕方と理解に基づいた指導計画の作成、豊中養護学校の実践における理論的な根拠について助言者から解説を行う。	
プロジェクトワークショップ	知的障害養護学校における自閉症教育の現状と課題	ファシリテーター：国立特殊教育総合研究所 研究員 齊藤宇開 補助ファシリテーター：国立特殊教育総合研究所スタッフ	25名
		【概要】知的障害養護学校における自閉症教育の現状と課題について、主に教育課程についてワークショップ形式で行います。	

プロジェクトワークショップのみ 17:00 まで開催。

9. 参加費 500円(資料代として、当日徴収します)

10. 募集方法(二次募集)

二次募集については「電子メール及びFAX」での応募も受けつけますので、下記に必要事項を記載の上、大阪府教育センター 特別支援教育研究室宛に申し込んで下さい。

FAX(06)-6692-1898 電子メール tsk2@edu.osaka-c.ed.jp

申 込 書

学校・所属名	氏 名	職 名	順位	希望分科会
			1	
			2	
			3	
連絡先 *分科会については、 後日連絡いたします。	(住所・電話)			

二次募集の締切

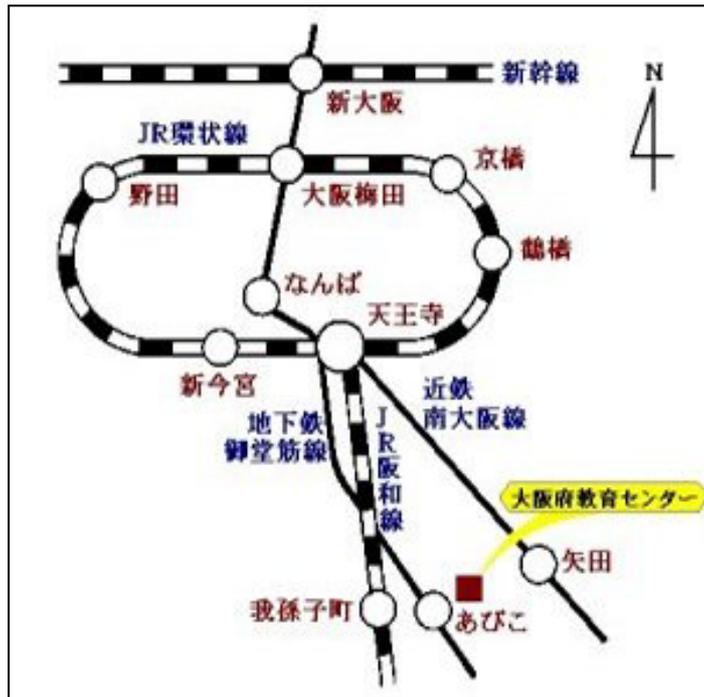
平成17年9月15日(木)必着

分科会についての決定について、15日以降、個人宛てに通知します。

11. 会場案内

最寄り駅

地下鉄御堂筋線「あびこ」



地下鉄「あびこ」より

徒歩10分(東北東へ約700m)



【問い合わせ先】 独立行政法人国立特殊教育総合研究所 (本セミナー担当: 教育支援研究部 研究員 内田俊行)
住所: 〒239-0841 神奈川県横須賀市野比5-1-1 電話: 046-848-4121(代表) FAX: 046-839-6908
E-Mail: v-autism@nise.go.jp

自閉症教育プロジェクト一日研修会

研究部

テーマ「本府での特別支援教育をどう進めるか」

- 現状の養護学級のあり方からどう進めていけばよいのか -

2005年8月2日(火) 東大阪市立イコーラムホールにて

170名を超える参加がありました。じっくりと染み渡る内容の濃い研修でした。以下に参加者の感想を紹介いたします。

<午前の部>

／坂下先生の実践を聞かせていただき、大変勉強になりました。養護学級が抱える問題や現状がわかり、その努力する姿勢に感銘しました。／今までなんとなく知っているという程度だった法のことを整理して示していただけたのがよかった。／事例を取り上げて説明していただけたので、とてもわかりやすかったです。／養護学級だから、今これだけの支援ができていますが、なくなってしまうと、通常学級に返された生徒、6.3%の生徒がもっと途方にくれてしまう。／養護学級の現状と取り組みについて知ることができたので、今後参考にしていきたいと思います。

<午後の部>

／基礎的なことから順を追って話していただけたので、とてもわかりやすかった。／障害のない子どもたちにもいえるのではないかとということがたくさんあった。また今後もこのような研修に参加したい。／高機能自閉症、アスペルガー症候群、自閉症スペクトラムのことがよくわかりました。知的に低い生徒にはもっと工夫がいると思いますが、実践するうえで、役立てたいと思います。／とても具体的でよかったです。いろいろな事例を交えながらの話がとてもわかりやすかったです。見通しを持つことが苦手、不安が強い児童についての話が聞いてよかったです。／山田先生の話聞いて、担任している子どもがパニックになっている理由がよくわかりました。／アスペルガー症候群の子の指導にとっても役立つ講演でした。／自閉症の子どもたちの特性について、深く知ることができました。／とてもわかりやすいお話で、支援の方法など具体的な話もたくさん聞いて、とても勉強になりました。



府養研ICT活用プロジェクト 講座G(18日)

(8月17日・18日 会場：大阪府立高槻養護学校)

「子どもに役立つグッズ改造・作成講座」の感想

中学以来、一度も手にしたことのないはんだゴテを手に、自作スイッチを作ったり、シャボン玉製造機を乗っ取り改造したり、BDアダプター制作、100円均一ショップのライトをスイッチに改造、そして、Mouse乗っ取り改造と1日でたくさん子どもに役立つグッズを作ることができました。どの作品も100円ショップで売られているようなものを少し改造するだけで、講座名通りの「子どもに役立つ」グッズに変身することに、ただただ感動するばかりでした。自分が不器用なことをすっかり忘れて、はりきって参加申し込みをしたのですが、案の定、他の受講者の方が次々と作品を仕上げられる中、うまくはんだ付けができず、冷や汗をかく場面が何度かありました。大井先生、榎場先生、大峠先生のフォローがあって、何とか無事にすべての作品を仕上げることができました。3人の先生方、本当にありがとうございました。グッズ制作中、「このシャボン玉製造機は、あの授業で使えるな」とか「このスイッチは、あの子に使おう」など、授業計画もバッチリ立てることが出来て、2学期はスタートダッシュをきることができそうです。とても充実した1日となりました。

(交野養護学校 山崎 愛子)

夏期講座は多数の参加があり、参加者のみならず、講師陣にも喜んでいただけた講座となりました。これは熱気あふれる研究会であったことを物語るように、主催者としてもうれしく思っております。

また、会場校としてご協力いただいた府立高槻養護学校の皆様にも感謝いたします。

皆様、ありがとうございました。

報告は、出来次第ホームページにUPしていきたいと思っております。



テーマ別研修会の報告

研修部

今年も290名の参加を得て、研修部のテーマ別研修会がもたれました。

本年度は、「早い時期の開催を」という参加者からの希望に添って、夏休みに実施となりました。

第1分科会は、初めてのテーマ「視覚の機能」についてオプトメトリスト（視覚療法士）の北出先生を迎えて、チェック方法からトレーニングまで教えていただき障害の改善に向けて2学期からの参考になったとの意見が多く寄せられました。

第2分科会は、「軽度発達障害児の行動」について特別支援教育士スーパーバイザーで現場の指導もされている岸本先生の講演でした。100名を超える参加者で、切実な思いが伝わってくるようです。教室でさまざまな行動を見せる子どもたちの理解と対応について研修しました。校内で協同した取り組みを作り出すことの大切さとそのための方法として共有できる資料づくりや手だての考え方について、大いに参考になったということです。

第3分科会は、「青年期」を迎える子どもたちの課題です。2次障害として不登校や非行といった問題を抱えていくことのないようにとは、われわれの共通の思いです。「決して早すぎることはない。決して遅すぎることもない」と粘り強く少年院で取り組まれた向井先生の実践は、感動的でした。

「自閉症」について、第4分科会ではその特性に即して環境整備や教具の紹介も含めての金井先生のお話でした。もっと時間がほしかったという感想がたくさん寄せられました。

第5分科会は、特に脳性マヒについて概論を学びました。具体的な指導法についてももっとお聞きしたいと、研修会が終わっても下嶋先生への質問が相次ぎました。

毎回参加者が増えている「性に関する課題」の第6分科会。「思春期をどう乗り越えるかで人生が決まる」とさえ言える子どもたちのこの問題に、保護者と学校が連携して取り組んでいくことの大切さを認識しあいました。保護者の立場から、また相談員として活動されている中村先生、大橋先生の助言が大変参考になりました。参加者がそれぞれ抱えている問題を出し合えて学ぶことができました。



夏の教材制作実技講習会の報告

研修部

今年も70名が参加して、「象の会」朝井、内藤、松永三先生をお迎えしての実技講習会が開かれました。

本年度、午前の部は実際の教材を前に「ものづくり」の大切さを子どもたちの発達に即してお話いただきました。午後の部は参加者の希望に合わせての教材づくりです。

今年の教材は、人気の「パタパタ」。すばらしい絵を数種用意していただきました。2種、3種と希望された方が多かったようです。「数字の歌」も毎回の人気作品です。「毎日使ってボロボロになったので作り直したい」と参加された方もありました。「メロディ帰還車」は、初のお目見えです。移動する力の弱い子どもたちに「行って帰ってくるおもちゃを」と考案されたものです。バランスをとるのが難しく、またハンダ付けなど工作にも苦労があったようです。「数字はかせ」は20までの数の数唱、合成・分解、加減などを音、光、手の操作を伴ってしようという作品です。マイコンを使ったおもちゃは今後増えていくのではないのでしょうか。

予定時間を過ぎても熱心に製作を続けた実技講習会でした。「来年はこんな作品を」という希望もたくさん出されています。

象の会のホームページにて作品が見られます。

<http://www15.ocn.ne.jp/~zounokai/>

